

第3回OECD保健大臣会合の報告

第7回国際保健に関する 懇談会	資料1-3
平成29年4月20日(木)	

開催日、場所及び出席者

【開催日】平成29年1月16・17日 ※概ね5～6年に1回開催 【場所】フランス(パリ)
【出席者】塩崎厚生労働大臣

報告(結果概要)

【政策フォーラム】

1月16日(月)に開催された政策フォーラム(サイドイベント)では「患者中心の医療制度」のテーマで議論が行われた。塩崎大臣は「保健大臣との対話」と題したディスカッションにパネリストとして参加し、「保健医療2035」とそれに基づく取り組みについて紹介した。

【保健大臣会合】

1月17日(火)に開催された保健大臣会合では、「非効率な医療費支出と無駄への取り組み(全体会合)」のテーマで議論が行われ、医療分野での効率化のための我が国の取り組みを紹介した。また、「高価格な医療措置と個別化医療への対応」をテーマとした分科会に参加し、高額な医療に関して、患者にとっての価値を最大化し、医療保険制度の持続可能性とイノベーションを均衡させるため、率先して取り組む決意を表明した。

【バイ会談】

上記のほか、OECDのグリア事務総長、チリのカスティージョ保健大臣、ノルウェーのホイエ保健福祉大臣、ハーバードビジネススクールのポーター教授、イタリアのロレンツィン保健大臣、イギリスのハント保健大臣と会談し、国際的な保健課題を中心に意見交換を行った。

OECD保健大臣会合 閣僚声明

I. 冒頭

- ・医療は幸福と包摂的成長の源
- ・OECD諸国の医療制度は既に大きな成果を達成しており、例えば、UHCの達成に大きな進展。持続可能で患者中心、データを活用した医療に向けて、先進国・新興国双方はOECD諸国の経験から多くを学ぶことができる
- ・成果の一方で、重要な課題も残されている。教育レベルなどの社会的・経済的要因による健康面（医療へのアクセスと治療成果）の格差が依然として残っており、格差に対処することがより包摂的な経済成長の強化につながる

II. 高価値な医療制度の促進

- ・多くの国で財政逼迫により医療支出の削減や伸びの鈍化が見られ、価格に見合ったケアを提供するための改革への需要は大きい
- ・低価値なケアに対処し、資源を効率的な医療措置に活用するための政策を議論
- ・医療費の多くの割合が実際には患者の健康を改善していないことを懸念し、医療制度をニーズに合ったものとする政策として、回避可能な医療過誤と有害事象への取組、薬剤耐性菌の問題への積極的対応、医療提供者間、医療ケアとソーシャルケア間の連携促進を考慮

III. 新技術とイノベーション

- ・医療技術は医療制度の成果の発展に貢献することを認識。遺伝子情報により個人に最適化された治療、デジタル通信ツール、ビッグデータの活用等の技術発展を歓迎
- ・一部の新世代の治療は治療法を根本的に変えるが、同時に課題として、財政にも影響を与える。効果的な治療へのアクセスを確保しつつ医療制度の持続可能性を確保し医療のイノベーションへのインセンティブを維持する必要性を認識
- ・その課題に取り組むため、OECDがG7の志向に沿って、革新的医薬品への持続可能なアクセスのために行う作業を歓迎。また、ステークホルダー間（政府、業界、患者団体、医療従事者等）の対話は新技術の活用に関する課題解決に資する可能性がある

IV. 医療制度をより患者中心に

- ・医療制度及び介護制度の効率性や有効性を最大化するとともに、サービスや提供者をまたいだシームレスで継続的なケア提供が必要
- ・医療制度が患者にとって重要なものを提供できているか測定するため、OECDが患者自身の治療の経験及び医療ケアのアウトカムに関する国際比較可能な測定方法を開発するよう求める

V. 対話と国際協調の促進

- ・ステークホルダー（政府、業界、患者団体、医療従事者等）との対話促進の重要性を認識
- ・グローバルな医療課題及び医療制度が直面する共通の課題に対応するため、発展途上国との対話、他の国際機関との協調を促進